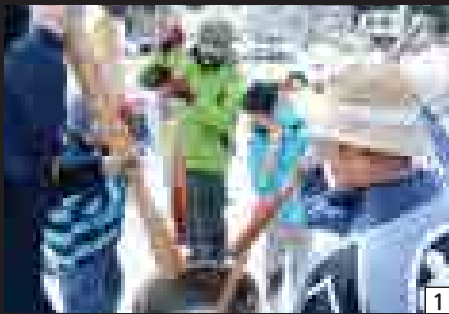


六郷のカマクラ

国の重要無形文化財に指定されている『六郷のカマクラ』が2月11日から15日にわたって開催されました。町内では天筆書きや雪宮、鳥追い小屋づくりなどに始まり、15日の「竹うち」までさまざまな行事が行われ、町内外から集まった観光客で活気にあふれていました。



1 2 各町内会や名水市場湧太郎などでは餅つきが行われました。つきたてのお餅は雪宮に供えられたり、あんこやきなこが施され、子どもたちや観光客に振る舞われたりしました。

3 六郷独特の「木貝」は長さ1尺8寸、およそ60センチ。外側にまわした竹の輪を「タガ」と呼び、本数は1年が12カ月ということで12本とされています。ポヘー、ホロホローといった独特な音で、お祭りのムードを盛り上げていました。



▲「美郷民話の会」の皆さんによる昔語り



▲天筆書き体験の様子

雪宮 鳥追い小屋 コンクール 審査結果

各町内会で作られた雪宮・鳥追い小屋が、訪れた観光客や地域住民の目を楽しませました。町観光協会主催で行われたコンクールでは3年連続で琴平町内会が最優秀賞を受賞しました。



最優秀賞の琴平町内会の雪宮

- 【最優秀賞】 琴平町内会
- 【優秀賞】 新町町内会、本道町町内会
- 【努力賞】 旭町町内会、荒町町内会、大町町内会、米町町内会、西高方町町内会



竹うち

2月15日の夜、竹うちの開始が近づくと、雪が降るカマクラ畑に木貝の音色が響き渡り、ぞくぞくと両軍が集まり出しました。見物客が周囲を囲み、北軍と南軍が中央にある松二オを挟んで対峙すると、竹を鳴らして掛け声を上げるなど気合い十分の様子です。

午後8時、南軍の総大将の赤坂稔さん(古町)と北軍の総大将の高橋隆次さん(旭町)がお互いの健闘を誓い、握手を交わしました。



■握手を交わす両軍総大将

「竹うちは、新しい年を占う神事です。新しい年の繁栄を祈って神様に奉納する祭りです。しきたりを守って、正々堂々と戦ってください」とアナウンスが流れ、両軍が待機線に並び、ひととき大きなサイレンの音とともに竹うちがスタートしました。

竹うちは3回に渡って行われ、それぞれの結果を受けて勝敗が決定されます。北軍が勝つと豊作になり、南軍が勝つと米価が上がると伝えられていて、新しい年の繁盛を祈る行事です。

1回戦、2回戦と両軍どちらも引けを取らない勇壮なぶつかり合いをみせた後、いよいよ天筆焼きが行われます。秋田諏訪宮の宮司さんが祝詞を奏上なさり、松二オに火が入れられると、

町内から集められた願いのこもった天筆がつぎつぎ火にくべられ、神様の元に届けられました。焼かれた天筆がうまく燃えて天高く上がれば文字が上手になり、成績が上がる。カマクラの火の粉を浴びれば1年間病気をしない。この火で焼いた餅を食べると風邪をひかないと言われています。

両軍は元より会場にいた全員が燃えさかる松二オを囲み祈りを捧げていました。

竹うちの3回戦は松二オの炎を挟んで行われます。両軍全力を尽くして戦いましたが、今年は北軍に軍配があがりました。

勝利した北軍の総大将の高橋さんの手には、六郷カマクラ保存会の岩屋会長から贈呈された地元六郷の酒樽が掲げられました。



天筆焼き